

マダニの感染症 「重症熱性血小板減少症候群」に注意しましょう

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

SFTS ウイルスを持つマダニにかまれることにより感染する病気です。（ウイルスを持つマダニは数％）

マダニは、

**森林や
草むら**

にいます

マダニは、3～8ミリと比較的大型で硬い外皮に覆われ、森林や草むらに生息しています。衣類や寝具、食品など屋内に発生する家ダニ（0.5ミリ）とは異なります。

マダニにかまれてから6日～2週間程度の潜伏期間後に、発熱、消化器症状（食欲低下、はき気、嘔吐、下痢、腹痛）などの症状がでます。

重症になると死亡することもあります。その他にもマダニにかまれたことで感染する病気は、日本紅斑熱、ライム病、ツツガムシ（ダニの一種）によるツツガムシ病があります。

感染の予防には、

**長袖
長ズボン**

で肌を覆う

森林や草むら、ヤブ、畑などに入るときには、長袖、長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる）足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等肌の露出を少なくすることが大事です。

●服は明るい色のもの（マダニを目視で確認しやすい）や化学繊維素材（マダニが付きにくい）がおすすめです。

●市販の防虫スプレーは使用方法をよく読み使用しましょう。



屋外活動のあとは・・・

屋外活動後はすぐに入浴し、わきの下、足の付け根、手首、膝のうら、胸の下、頭部（髪の毛の中）などマダニにかまれていないか確認してください。

マダニにかまれたらどうすればよい？

- マダニにかまれても痛みがなく気がつかない場合が多いとされています。
- 人や動物に取りつくと皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日～10日間以上）吸血します。
- 吸血中のマダニに気がついた際、無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液が逆流したりする恐れがあるので、医療機関で処置（マダニの除去、洗浄等）をしてもらってください。

※マダニに咬まれた後、数週間は体調の変化に注意し、発熱、食欲低下、嘔吐、下痢等の症状があった時には、医療機関で診察を受けてください。



問い合わせ・相談窓口

新温泉町 健康福祉課 健康推進係（すこやか～に）
豊岡健康福祉事務所 健康管理課

電話99-2940
電話0796-26-3660